

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

令和5年度を「R5n」、令和5年を「R5」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組み の 方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
-----------------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	東区	40,553（15.2%）		192,002（71.9%）		34,448（12.9%）		269,307	
H17		38,850（14.3%）		190,269（70.2%）		42,065（15.5%）		274,481	
H22		41,272（14.3%）		197,419（68.4%）		50,090（17.3%）		292,199	
H27		43,380（14.3%）		196,831（65.1%）		62,089（20.5%）		306,015	
R2		44,624（14.3%）		198,366（63.5%）		69,637（22.3%）		322,503	
R5		44,649（13.9%）		205,314（63.7%）		72,408（22.5%）		332,243	
		201,752（12.9%）		1,011,903（64.7%）		350,769（22.4%）		1,642,571	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）	
H12	東区	6,124（5.4%）		46,878（41.0%）		114,366			
H17		8,125（6.9%）		47,262（40.1%）		117,887			
H22		10,653（8.0%）		56,811（42.7%）		133,024			
H27		13,590（9.6%）		61,734（43.6%）		141,506			
R2		15,726（10.1%）		72,799（46.6%）		156,161			
		81,715（9.8%）		431,231（52.0%）		830,051			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と 課題	・小中学校での避難所の開設・運営に関して、地域・学校・区の役割分担を明確にした開設運営計画に基づく避難所開設訓練をR4n末までに全校区で実施している。また、災害時の避難支援が必要な避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成を促進するため、6校区でワークショップを実施。ワークショップがR4nに終了した2校区ではフォローアップを実施し、また、そのうち1校区については、作成した個別避難計画を活用した防災訓練を実施している。自然環境や社会情勢の変化などにより複雑化する災害対応について、各校区における「自助」「共助」の意識醸成や取組み促進を継続させる必要がある。 ・地域の安全・安心マップの更新支援、警察や地域と連携した交通安全推進・飲酒運転撲滅運動やニセ電話詐欺防止などの市民啓発を実施している。依然として飲酒運転は後を絶たず、さらに、ニセ電話詐欺の手口が巧妙化しているため、引き続き安全・安心のまちづくりに向けた市民啓発を実施する必要がある。 ・放置自転車対策やごみ出しルールの啓発などモラル・マナー向上に取り組んでおり、特に外国人に対し、外国語版のごみの出し方ルールのチラシによる情報提供や、日本語学校での講習会などを実施しているほか、R5nには東区独自の外国人向け生活情報パンフレットを作成している。在住外国人数は増加を続けており、引き続き外国人に向けた啓発活動に取り組む必要がある。 ・生活道路については、歩行空間等のバリアフリー化や交通安全施設の整備とともに、老朽化がみられる路線において、計画的・効率的に改修・改善を進めていく必要がある。
-----------	---

今後	・安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、各校区における避難所開設訓練を継続して支援するとともに、地域住民主体による避難行動要支援者にかかる個別避難計画の作成促進及び個別避難計画を活用した防災訓練など避難の実効性を担保する取組みを引き続き行っていく。 ・地域における防犯活動を支援するとともに、飲酒運転撲滅や多様な犯罪への対応に向け、地域や関係機関と協同で市民啓発などを推進する。 ・外国人を含め、誰もが気持ちよく暮らせるためのモラル・マナーの向上とともに、外国人への情報提供や生活支援に引き続き取り組んでいく。 ・安全で快適な生活基盤づくりのため、歩行空間等のバリアフリー化やゾーン 30、路側帯カラー等の交通安全施設の整備とともに、老朽化がみられる路線において、道路施設個別施設計画に基づく維持管理を推進する。
----	--

子どもが健やかに育つまち

現状と課題	・児童虐待の発生予防・早期発見・再発防止に向けては、「東区要保護児童支援地域協議会」の取組みを基本とし、「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、区内の協力病院（九大病院、こども病院）やスクールソーシャルワーカー、子ども食堂等、地域の社会資源とも連携強化を図っている。さらに、教職員や児童の知識・スキル向上を図るため、子どもへの暴力防止プログラム（CAP プログラム）を 10 校で実施している。また、育児相談や子育て教室を対面に加えてオンラインでも行い、育児不安の解消や子育て家庭の孤立防止に取り組むとともに、R5.9 からプッシュ型の子育て支援を試行している。家庭問題の複雑化・多様化や児童虐待相談対応件数の増加を踏まえ、R6.4 に設置した「こども家庭センター」のさらなる機能強化が必要である。 ・地域と共働した身近な公園の適切な管理や、保育園・学校等での交通安全教室を行っている。今後も、子どもを安全に、安心して育てられる環境づくりを推進する必要がある。
今後	・「こども家庭センター」として母子保健と児童福祉の一体的な相談支援を行うとともに、児童相談所や関係機関との連携をより一層強化する。また、CAP プログラムの実施、プッシュ型の子育て支援、対面・オンライン等による育児相談や子育て教室等を充実させ、児童虐待の発生予防・早期発見、子育て家庭の孤立予防に、引き続き積極的に取り組んでいく。 ・公園等の適切な管理を引き続き行うとともに、地域や学校等と連携しながら、子どもが健やかに育つまちづくりを推進する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

現状と課題	・福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例の施行により、自治会・町内会長等との関係づくりのほか、町内会活動支援補助金の活用促進や、新任自治会長・町内会長を対象とした研修、町内会へのヒアリングを実施し、自治会・町内会を支援している。また、NPOや企業等と地域とのマッチングに向けて、各主体のニーズ等を把握するとともに、地域への情報提供を行っている。自然災害発生時における住民同士の助け合いなど、地域コミュニティの役割が高まる一方で、高齢者就業率の上昇等により地域づくりの担い手不足が課題となっており、今後も大学や企業・NPO等の多様な主体が地域と連携した「共創のまちづくり」の推進へ向けた支援を強化する必要がある。 ・地域住民の相談に応じ、適切な対応やサービスへのつなぎ役としての役割を担う民生委員の担い手不足が課題となっており、人材発掘・育成の取組を推進する必要がある。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、「よかトレ実践ステーション」の活動支援や地域カフェ・買い物支援などの住民主体の介護予防・生活支援へ向けた取組の促進を行っている。また、認知症に対する理解促進のため、ホームページ等での啓発、事業所ネットワークと共に大学や地域で声掛け訓練等を実施している。虐待をはじめとする高齢者の権利侵害など緊急支援を要する事案も増加しており、高齢者を地域で支えるためにも認知症に対する理解促進が急務である。また、地域包括ケアシステムに係る関係者間の交流を促進し、医療機関や介護事業所、地域の連携を強化していく必要がある。
今後	・地域活動の活性化へ向け、自治協議会とともに自治会・町内会等に対してヒアリングを行い、課題やニーズを抽出して、補助金の活用や広報支援など、よりきめ細かな活動支援を行う。また、担い手不足の解消へ向け、大学や企業・NPO等の多様主体に引き続き働きかけを行い、地域との連携を促進していくとともに連携できていない地域にも、大学などとのマッチングを積極的に推進していく。 ・民生委員の役割や活動に関する講座開催や広報活動を積極的に行い民生委員の認知度向上に引き続き取り組んでいく。また、幹部研修や新任委員研修等各種研修を実施し、現任民生委員の活動支援に引き続き取り組んでいく。 ・医療・介護・地域等様々な主体が、見守り、支え合う仕組みづくりに引き続き取り組んでいく。また、よかトレ実践ステーションの登録推進や活動支援の強化など地域全体で健康寿命の延伸を推進し、健やかでいきいきと暮らせる取組を進めていく。認知症については、若い世代を含む地域全体の理解がより深まるよう、大学や事業所ネットワーク等と共働での声掛け訓練の実施等、取組を強化していく。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	・「香椎賑わいづくりの会」を構成する市民、地域、NPO、企業、行政が連携して、香椎駅周辺において様々なイベント等を実施している。今後も界限性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。 ・アイランドシティ地区では人口増加に伴い、照葉はばたき小学校が開校したほか（R6.4）、新設公民館の運用開始が予定されている。当該校区において、良好なコミュニティ形成を促進する必要がある。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等においては、優先交渉権者が決定し（R6.4）、都市計画等の整備が進んでいる。今後、多くの住民が移り住むことが見込まれており、地域、大学、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	・香椎駅周辺は、市民、地域、NPO、企業、行政等が連携を図りながら、賑わいのあるまちづくりを推進する。 ・アイランドシティ地区において、照葉はばたき小学校区における共創のまちづくりの実現に向け、近隣校区自治協議会や関係事業者などの様々な主体と連携して、必要な支援等に取り組む。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等において、グランドデザイン（H30.7策定）に基づき、良好なコミュニティの形成と新たな都市機能の導入に向け、地域、大学、企業と連携しながら、未来に誇れるまちづくりに引き続き取り組んでいく。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	・歴史・文化・自然など東区の魅力について、SNSやホームページ等での情報発信に取り組んでいるほか、観光モデルコースを作成し、紹介している。今後も、東区の魅力を多くの方々に知ってもらい、実際に訪れてもらうことで、賑わいと活力あふれるまちづくりを進めていく必要がある。 ・「東区芸術文化祭」の一環として、地域や東区在住アーティストとの連携によるアート作品制作をはじめ、なみきスクエアにおいて、大学との連携による作品展示や、市民が気軽に芸術を楽しむ「なみき芸術文化祭」を開催した。「なみきスクエア」を東区における芸術・文化の拠点として、賑わいにあふれ、多くの人が交流し、芸術・文化を感じられるまちづくりを推進する必要がある。
今後	・区のSNSやホームページでの情報発信の他、市民との共働による歴史講座等、魅力の再発見につながる取り組みを行うとともに、市民や学生を巻き込んだ東区の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進する。 ・「なみき芸術文化祭」など芸術・文化に関する各種イベントを開催するとともに、情報発信し、賑わいを醸成する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、 歴史と伝統が息づくまち・博多区

取組み の 方向性	○お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち ○安全で安心して暮らせるまち ○歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち
-----------------	--

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	博多区	22,249（12.3%）	133,247（73.8%）	24,958（13.8%）	180,722
H17		22,015（11.6%）	138,342（73.1%）	28,898（15.3%）	195,711
H22		21,276（10.4%）	148,740（72.8%）	34,371（16.8%）	212,527
H27		21,491（10.0%）	151,343（70.4%）	42,134（19.6%）	228,441
R2		24,119（10.5%）	163,022（71.2%）	41,730（18.2%）	252,034
R5		23,629（10.0%）	169,452（71.9%）	42,514（18.0%）	258,751
	全市	201,752（12.9%）	1,011,903（64.7%）	350,769（22.4%）	1,642,571
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）
H12	博多区	6,794（7.5%）	48,177（53.1%）	90,776	
H17		8,286（8.4%）	54,166（55.0%）	98,573	
H22		11,512（9.3%）	79,610（64.2%）	124,070	
H27		15,030（10.8%）	92,551（66.8%）	138,629	
R2			12,234（7.9%）	102,030（66.1%）	
	全市	81,715（9.8%）	431,231（52.0%）	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と 課題	・単身世帯の割合が高い福岡市（R2 国調：52.0%）にあって、博多区は7区で最も高い（同：66.1%）。また、現在の居住地に5年以上住んでいる人の割合は、45.7%（R2 国調）と転出入者（区内転居含む）が多く、共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が90.3%（R2 国調）と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・全地域で高齢者数（特に後期高齢者数）が増加している。集合住宅も多く、単身高齢者や孤立化した高齢者も多いため、問題が複雑化・複合化した後に表面化する案件が増加している。また、虐待等への対応件数も急増している。 ・コロナ禍を経て、高齢者の体力や認知機能が低下している現状があり、地域における健康寿命の延伸への取組みの重要性が増している。 ・これらの状況に対応するために、各地域における機関（医療、介護、ケアマネジャー等）や地域団体（自治協、自治会、社会福祉協議会、民生委員、衛生連合会、老人クラブ、NPO等）の相互の連携がますます必要であり、区（地域保健福祉課）やいきいきセンターによる地域支援の重要性も増している。 ・転入者世帯が多く、子育てに不安を抱える世帯が孤立する傾向が高いと推測される。児童扶養手当の受給率が高いなど生活基盤が不安定であるため、育児不安を抱えている子育て世帯が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・特定健診受診率が市平均を下回っており（R5n：博多区 24.7%、福岡市 27.6%）、医療機関や地域住民と連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。
-----------	---

今後	・「福岡市共創による地域コミュニティ活性化条例」に基づき、コミュニティが持つ価値を市民と共有し、自治協議会や自治会・町内会の活動を支援するとともに、地域活動の意義や魅力を住民に伝え、企業や団体、学校等との共創により、引き続き持続可能なコミュニティづくりに取り組む。 ・地域における関係機関の連携組織である事業所ネットワークや地域団体の連携を進め、区（地域保健福祉課）やいきいきセンターの地域支援、個別支援の取組みを強化し、地域包括ケアシステムの推進を図る。 ・保育施設等の情報収集に努め、相談者に対して適切に情報提供を行う。また、こども家庭センターにおいて妊娠期から切れ目のない子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待の防止・早期発見・早期対応を行う。 ・若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防の取組み、がん検診の受診勧奨を推進する。
----	--

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・校区（地区）防災組織においては、頻発する自然災害の発生を受け、地域防災に対する意識の向上や自主的な活動の広がりが見られ、地域防災の機運が高まっている。同時に、市職員等の避難所運営等に対する意識も高まっているため、地域住民、施設管理者、市職員が今以上に一体になり進めていく必要がある。また、避難行動要支援者の支援については、地域によって意識や活動に濃淡があり、地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。 ・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は7区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。また、悪質な客引きの増加により博多駅筑紫口周辺の治安悪化が懸念されている。 *交通事故発生件数(R5)：1,315件（前年比71件増） *犯罪認知件数(R5)：3,034件（前年比449件増） ・自転車の放置台数は、7区で中央区に次いで2番目に多く、特に中洲地区に依然として多く見られる。 *自転車の放置率(R5.10)：1.4%（前年同月比増減なし） ・生活道路について、損傷が激しい箇所が多く、計画的な維持修繕が必要である。
今後	・地域防災については、引き続き防災研修・訓練等を校区（地区）や町内会を対象に博多消防署と連携し実施する。さらには、職員や施設管理者に対する避難所運営等を含む防災研修等の充実を図る。また、避難行動要支援者の支援については、避難行動要支援者の支援に係るワークショップ等も活用し、地域の実情に応じた「共助」の体制づくりの支援の充実を図っていく。 ・博多警察署等と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・博多駅筑紫口周辺の治安の悪化を防ぐため、巡回パトロール及び注意喚起広報を実施する。 ・歩行空間や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、6か国語表記駐輪場案内チラシ及び街頭指導等により、博多駅周辺や中洲地区において自転車利用者への指導・啓発を行い、放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。 ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H25n策定・10年間の事業計画）に基づき、生活道路の計画的な補修を行っており、整備率は95%（面積ベース）。今後は次期計画である「道路施設個別計画（R6～R10n）」に基づく、舗装アセット事業の効果的な事業実施に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多旧市街エリアにおいて、これらを生かした事業に取り組んでいる。 ・賑わい創出に向け、地域や関係局と連携し、継続的に回遊性の向上や歴史文化資源など地域の魅力発信の充実を図っていく必要がある。 ＊博多ガイドの会案内人数（R5n） - 定点ガイド 4,650 人、派遣ガイド 862 人、地域密着型企画ガイド 762 人 ＊博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 - R1：97,691 人、R2：中止、R3：中止、R4：44,257 人、R5：70,198 人
今後	・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進するとともに、賑わい創出や回遊性の向上を図る。 ・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

取組み の 方向性	○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち
-----------------	---

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	中央区	16,380	(10.9%)	115,013	(76.2%)	19,478	(12.9%)	151,602	
H17		17,043	(10.5%)	122,962	(75.4%)	22,974	(14.1%)	167,100	
H22		17,562	(10.1%)	127,849	(73.8%)	27,724	(16.0%)	178,429	
H27		19,531	(10.5%)	133,279	(71.5%)	33,581	(18.0%)	192,688	
R2		20,432	(10.9%)	132,168	(70.5%)	34,976	(18.6%)	205,501	
R5		20,511	(10.6%)	137,304	(70.6%)	36,593	(18.8%)	212,323	
	全市	201,752	(12.9%)	1,011,903	(64.7%)	350,769	(22.4%)	1,642,571	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)	
H12	中央区	5,683	(6.9%)	47,521	(57.6%)	82,522			
H17		6,848	(7.4%)	54,284	(59.0%)	91,929			
H22		9,473	(8.9%)	67,499	(63.2%)	106,825			
H27		11,893	(10.2%)	73,677	(63.5%)	116,063			
R2			10,775	(8.5%)	83,088	(65.3%)	127,259		
	全市	81,715	(9.8%)	431,231	(52.0%)	830,051			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と 課題	- 都心部の魅力を生かした回遊性の向上のため、エリアマネジメント団体「We Love 天神協議会」と共働でまちのにぎわい創出や魅力向上を図っている。R5n は、公開空地活用の規制緩和を受け、天神の公開空地各所で日常的にキッチンカーを展開するなど、天神ビッグバンによる建替え期間中において、日常的な賑わいづくりを実施した。R6n も引き続き天神ビッグバンによりビル建替えが進む状況下であり、新しく生まれ変わる天神を見据えた戦略と施策を再構築していく必要がある。 - 地域のまちづくりを継続支援し、地域の特性を活かした回遊性の向上に向けた更なる取組みが必要である。 - セントラルパーク基本計画を踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。
今後	「We Love 天神協議会」は、R5n に改定した天神まちづくりガイドライン具体化に向け、領域ごとの部会を開催し、戦略の策定に着手しており、R6n は戦略に基づく施策の検討を行う予定である。将来の天神を見据えたまちの魅力向上のため、公開空地の活用を継続しつつ、歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）制度の活用を進め、イベントの実施だけでなく、日常的に人が憩う空間を創出するなど、エリアマネジメント団体だからこそ取り組める施策の検討を進めていく。 - 地域のまちづくり団体等の実情・ニーズを把握し、共働によるまちづくり活動を進める。 - 福岡城跡や鴻臚館跡等の認知を図りまちづくりに活用していくため、引き続き、西公園、舞鶴公園周辺校区が一体となって取り組む福岡城・鴻臚館まつりの開催支援を行うとともに、幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向がみられる。 ・住民の自治意識やコミュニティへの帰属意識が希薄化してきているため、地域活動の意義や役割等を広く周知し、住民の理解促進、自治会・町内会への参加促進などに繋げる必要がある。 ・区の高齢化率は約 19.6%（R6.1 末現在）であり、65 歳以上がいる世帯のうち高齢単身世帯は 43.1%（R2 国勢調査）を占めており、7 区の中でもっとも割合が高い。超高齢社会に備え、誰もが個人として尊重され、人生の最後まで住み慣れた地域で暮らしていけるよう、市民や専門職などが主体的に健康づくりや介護予防に取り組み、医療や介護が必要になっても人や地域とのつながりを絶やさず支え合うまちづくりが必要である。 ・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが必要である。
今後	・公民館と地域事業者、NPO 等が共働で事業を実施し、地域とのつながりの形成や、オンラインでの実施手法も取り入れながら、地域活動への参加促進と、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。 ・地域活動を広く知ってもらうため、区広報媒体の活用強化を図るとともに、自治会・町内会の広報活動を支援する。 ・本人の意思を尊重した支援が行えるよう多職種間の連携体制の強化や高齢期の備えに関する市民啓発などに取り組み、保健（予防）・医療・介護・生活支援・住まいが一体的に切れ目なく提供される支援体制づくりを推進する。また、健康づくりに対する啓発活動を継続するとともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進を図る。 ・母子何でも相談のほか、低月齢児とその母、アラフォーママとその児、多胎児とその母など特別な支援を要する親子向けのセミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	・警固断層の大規模地震や集中豪雨等大災害が発生した際に、自身や家族を守る自助の取り組みのほか、避難行動要支援者への避難支援対策の充実を図るなど、誰もが安心して暮らせる共助のまちづくりを推進する必要がある。 ・放置自転車については、これまでの対策の浸透により着実に減少しているが、今後も継続的な対策が必要である。 ・消費者や事業者に食の安全に関する正しい知識が十分に浸透していない状況にあるため、知識と理解を深め予防行動につながるような取り組みが必要である。
今後	・共助のまちづくりを推進するために、避難行動要支援者名簿を活用した平時の見守りや避難支援、地域による避難所開設・運営訓練など、地域の自主防災活動を支援する。 ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、より効果的・効率的な放置自転車対策を継続的に実施し、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。 ・食の安全に関する正しい知識と行動に関する内容について、工夫をこらした動画を作成し、Web 等を活用した啓発活動を実施していく。

いきいき南区　くらしのまち ～身近な自然とふれあい　みんながつながり支え合う～	
取組みの方向性	○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち ○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち ○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる うるおいとやすらぎのあるまち ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	南区	35,937	(14.8%)	174,163	(71.7%)	32,830	(13.5%)	243,039	
H17		34,007	(13.8%)	173,480	(70.6%)	38,204	(15.5%)	246,367	
H22		33,528	(13.6%)	167,308	(68.0%)	45,186	(18.4%)	247,096	
H27		34,626	(13.7%)	163,562	(64.5%)	55,430	(21.9%)	255,797	
R2		36,103	(13.9%)	163,020	(62.9%)	60,079	(23.2%)	265,583	
R5	全市	36,117	(13.8%)	164,476	(62.7%)	61,908	(23.6%)	268,876	
		201,752	(12.9%)	1,011,903	(64.7%)	350,769	(22.4%)	1,642,571	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）	
H12	南区	6,613	(6.3%)	42,016	(40.0%)	104,999			
H17		7,514	(6.9%)	43,813	(40.3%)	108,734			
H22		9,892	(8.8%)	46,220	(41.2%)	112,306			
H27		13,798	(11.5%)	51,553	(43.1%)	119,487			
R2		14,397	(11.2%)	59,606	(46.3%)	128,868			
	全市	81,715	(9.8%)	431,231	(52.0%)	830,051			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち	
現状と課題	- 子育て家庭が育児に不安・負担を感じて孤立化したり、虐待に発展することがないよう、子どもを安心して生み育てられ、子どもが健やかに成長できるための施策が求められている。 - 南区は、25校区中20校区が高齢化率20%を超え、うち6校区が30%以上となっている。高齢者単独世帯数は市内2番目、その割合は市内3番目に高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。 - 高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。 - 福祉や防災など「共助」の重要性が改めて認識され、地域コミュニティが果たす役割への期待が高まっている一方、住民の自治意識や地域コミュニティへの関心が希薄化し、地域活動の担い手不足が顕在化している。
今後	- 発達が気になる就学前の子どもと親が集えるサロンの開催や子育て講座、啓発のための講演会のオンライン配信を継続するなど、来所が難しい人も含め、育児不安の軽減や孤立化・虐待の予防などを地域や関係機関と連携しながら進めるとともに、子育て情報の提供などに取り組む。 - 健康寿命の延伸に向け、よかトレ実践ステーション（施設版）等の集い場を創出し、住民の主体性を活かした健康づくり・介護予防の体制づくりを進める。また、高齢者の見守りなど生活支援の充実や、在宅医療の推進、認知症に係る施策に取り組む。 - 地域と高齢者支援に関心が高い医療・介護等事業所ネットワークが連携・協力して「生活支援」「見守り」「介護予防」「居場所づくり」「担い手不足」などの地域課題の共有や解決に向けた取り組みを支援する。 - 自治協議会や自治会・町内会など地域コミュニティの大切さを広く周知するとともに、公民館事業等を通じた新たな人材の発掘・育成、大学や企業との連携により地域活動の活性化を図り、共創のまちづくりに取り組んでいく。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	・南区居住者の 23.7% が 65 歳以上の高齢者であり、外国人もこの 10 年間で約 1.6 倍に増えているため、これらの人に対する災害時における支援の仕組み構築が課題である。 ・南区では、刑法犯認知件数は増加傾向にあり（R5n 中 1,424 件）、犯罪の少なさに満足している住民の割合は昨年より減少している（R5n 68.4%（福岡市新基本計画の成果指標に関する意識調査：行政区別(南区)））ため、より一層の地域防犯力の向上を目指す必要がある。また、自転車による交通事故発生件数は昨年より増加しており（R5n 中 251 件）、死亡事故も発生しているため自転車を中心とした交通安全啓発活動が急務である。 ・コロナの 5 類引き下げ以降、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、地域住民と居住外国人の相互理解がまだ十分とは言えず、早急な対策が必要である。
今後	・災害時における高齢者や外国人などの要配慮者の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組む。また、ワークショップやセミナーなどを通じた校区独自の避難所運営マニュアル作成支援や、校区間の情報共有を図るための連絡会の開催などにより、区全体の防災意識向上につなげる。また、外国人や高校生などを、災害時に支える側の人材として育成する。 ・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校等の留学生などを対象に、生活面に関わる「ごみ出しルール」、「自転車の駐輪マナー」についての出前講座や「税」に関する広報活動などを実施するとともに、SNS を使った情報発信を行う。地域住民と居住外国人の相互理解を深め、地域住民と良好な関係が築けるような交流事業を実施する。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	・住民に水辺や緑などの自然の魅力を発信することで、自然環境の豊かさと地域の魅力を身近に感じてもらうことが重要である。
今後	・区の自然や魅力スポットを紹介したマップを配布することで身近な自然を発信するとともに、鴻巣山や油山でのワークショップなどを実施し、自然に触れる機会を創出する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	・区及び周辺部の 7 つの大学と包括連携協定（H28.12）を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」を H29n から実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16n から実施している。今後、地域課題の解決につながる連携・交流事業を促進する必要がある。（R5n：2 件） ＊「南区こども大学 2023」（23 講座開講（うち 21 講座実施）、来場者数 542 人） ＊「南区出前講座(大学版)」（46 講座実施、参加者数 886 人） ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取組みが求められている。
今後	・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを支援するとともに、地域ニーズの把握や大学などへの働きかけを行い、地域課題の解決につながるような継続的な連携・交流を大学、地域に提案する。 ・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西部・南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組み、地域の現状や課題、ニーズ等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。

豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～	
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切に作るまち

区の人口・世帯動向							
		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）	
H12	城南区	16,704	(13.3%)	92,827	(73.8%)	16,212	(12.9%)
H17		16,281	(12.7%)	92,145	(72.0%)	19,483	(15.2%)
H22		16,495	(12.9%)	88,231	(69.1%)	22,940	(18.0%)
H27		16,837	(13.0%)	84,258	(65.2%)	28,215	(21.8%)
R2		16,709	(13.3%)	78,051	(62.0%)	31,170	(24.8%)
R5	全市	16,321	(12.9%)	78,120	(61.8%)	32,013	(25.3%)
		201,752	(12.9%)	1,011,903	(64.7%)	350,769	(22.4%)
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯	
H12	城南区	3,381	(5.7%)	28,349	(47.9%)	59,194	*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H17		4,132	(6.8%)	28,615	(47.2%)	60,655	
H22		5,275	(8.5%)	29,678	(47.7%)	62,189	
H27		7,206	(11.2%)	31,533	(48.9%)	64,511	
R2		7,588	(11.3%)	34,148	(50.8%)	67,276	
	全市	81,715	(9.8%)	431,231	(52.0%)	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち	
現状と課題	・避難所の開設・運営については、地域・行政・施設管理者の三者共働による運営体制の確立に向けて、避難所運営マニュアルの整備（R5n 末7 校区）と訓練を実施。今後も引き続きマニュアルの整備と三者の連携を強化していく必要がある。 ・城南区における刑法犯認知件数は2 年連続で増加しており、R5 は前年比 122 件増の 890 件で、特に知能犯（特殊詐欺等）及び窃盗犯による被害が増加傾向にある。また、区職員や警察官をかたる詐欺事案も発生しており、城南警察署や地域と連携した取組みを継続・強化していく必要がある。 ・夫婦が協力して育児を行うことは大変重要であり、父親が子育てに積極的に取り組み、夫婦コミュニケーションを大切にすることで、母親のストレスや育児負担感の軽減を図り、育児不安や児童虐待の未然防止を図ることが必要である。
今後	・災害が発生した際に避難所開設を迅速に行えるよう、避難所運営職員と地域とが協力した避難所開設体制の構築を推進する。 ・避難所運営マニュアルの整備と地域・行政・施設管理者が参加する避難所開設訓練を進め、三者の連携強化を図るとともに、訓練と研修を充実し区職員のさらなる災害対応能力向上を図る。 ・城南警察署と連携し、高齢者を対象とするニセ電話詐欺に関する注意喚起、地域における防犯パトロール活動の支援、防犯強化月間における街頭キャンペーンの実施などを通じて、犯罪のない安全で住みよいまちづくりの実現に向けた取組みを推進する。 ・父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを啓発するため作成したリーフレットを母子健康手帳交付時に配付するほか、SNS を活用し広く啓発していく。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

現状と課題	・地域の自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化、活動の担い手不足・固定化・高齢化、自治会・町内会加入率の低下などが問題となっており、活動の担い手不足の解消と担い手の育成に対する支援が必要である。 ・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により独居や認知症の方も多く、高齢になっても住み慣れたまちで安心して住み続けられるように、地域で支え合うまちづくりが必要である。また、若い頃から継続的に運動する住民を増やすことで、健康づくりの推進、健康寿命の延伸を図る必要がある。
今後	・大学と連携し、公民館で地域住民の関心の高い様々なテーマの講座を開催する。また、地域活動者への研修を実施するなど人材の発掘・育成を支援し、地域で支え合うまちづくりを推進する。 ・地域包括ケアシステムの実現に向け、保健・医療・介護などの専門職や地域関係者と共働で個別ケースへの支援内容の検討などを行う各種地域ケア会議を開催し、地域と専門職の繋がりや支援体制の構築を推進する。また、多職種連携研修会を医師会共催で開催し、医療と介護の連携体制を強化する。 ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症の方やその家族に早期に関わる認知症初期集中支援チームの活動を推進していく。 ・運動を始めるきっかけづくりと運動習慣の獲得に向けた運動講座の参加対象年齢等を18歳以上に拡大し、民間運動施設と連携して開催する。また、高齢者が身近な場所で健康づくり・介護予防に取り組めるよう、「よかトレ実践ステーション」の創出及び継続支援を行う。 ・健康寿命の延伸に向けて、年間を通じた広報啓発や個別勧奨等により、特定健診の受診率向上を図るとともに、生活習慣の改善や糖尿病等の生活習慣病の重症化予防のため、健診結果に応じた保健指導に取り組む。

地域と大学が共生するまち

現状と課題	・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数約2万3千人は、全市の大学生の約3割に相当することから、若い学生の活力を生かし地域活性化を促進する必要がある。また、大学の高度な教育研究機能や設備、専門的知識を持つ人材などの資源を地域課題の解決に生かす取り組みが必要である。
今後	・大学が市民向けに行っている講座や地域活動、地域と大学の交流事業等の情報を発信する。また、学生が地域活動に参加しやすい仕組みづくりにより、地域と大学や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にするまち

現状と課題	・油山・樋井川の魅力を広く伝えとともに、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援することにより、自然環境保全意識の醸成を図り、住みやすい環境づくりに生かす必要がある。
今後	・大学や地域活動団体等と連携し、油山や樋井川の自然を身近に感じられるイベントの実施や、油山・樋井川の四季折々の情報を区ホームページやSNS等で発信することなどにより、自然環境を大切にするまちづくりを推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち	
取組み の 方向性	○お互いが支え合い安心して暮らせるまち ○早良区の特性を生かした魅力あるまち ○地域の魅力を生かしたまち ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部 ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部 ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	早良区	32,337（15.9%）	145,141（71.5%）	25,570（12.6%）	203,656
H17		31,417（15.0%）	145,996（69.8%）	31,730（15.2%）	209,570
H22		31,510（14.9%）	142,113（67.4%）	37,234（17.7%）	211,553
H27		32,653（15.1%）	137,689（63.6%）	46,110（21.3%）	217,877
R2		32,652（15.1%）	131,885（60.9%）	52,021（24.0%）	221,328
R5		31,851（14.5%）	132,595（60.5%）	54,628（24.9%）	223,841
	全市	201,752（12.9%）	1,011,903（64.7%）	350,769（22.4%）	1,642,571
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）
H12	早良区	4,687（5.8%）	26,881（33.0%）	81,425	
H17		6,181（7.1%）	30,195（34.9%）	86,621	
H22		7,467（8.3%）	32,128（35.6%）	90,134	
H27		10,299（10.8%）	36,104（37.8%）	95,617	
R2			12,074（12.0%）	40,423（40.2%）	
	全市	81,715（9.8%）	431,231（52.0%）	830,051	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と 課題	・近年の記録的豪雨や台風など、自然災害の甚大化・頻発化が著しく、自助・共助による地域防災力の強化が必要である。R5nは地域のニーズに応じた防災講座・訓練を18校区30回、個別避難計画作成ワークショップを6校区6回実施した。 ・子育て家庭の孤立や児童虐待等の課題が顕在化しており、支援を要する子どもを含む家庭を早期に発見し支援する必要がある。子ども向け・大人向けの「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」（R5n:延1,030名参加）を実施した。また、発達が気になる子とその保護者を対象に、子育てサロン「もちもち」（R5n:14回実施）の開催や、子育て講演会（R5n:オンライン等で61名視聴）を実施した。 ・健康づくりに役立つ「サザエさん通り食育レシピ集」を活用し、R5nは調理動画の作成・配信や、地域での食育講習会を実施した。様々な世代に向けた食育を推進していく必要がある。 ・R5nの早良区特定健診受診率は29.6%で、R4n（28.8%）を超えて過去最高となった。目標値（40.0%）に向けて、区の状況に合った啓発活動の工夫や実施医療機関への働きかけ、受診機会の確保等に取り組む必要がある。 ・高齢者人口が増え続ける中、R5nから認知症支援の強化拡充に重点を置き、公民館、地域と専門職の共創による地域包括ケアの推進に取り組んでいる。一過性のものとならないよう、地域の各種団体や専門職との連携を一層強め継続していく必要がある。 ・子ども会活動の減少や役員のなり手不足の解消に向け、R5nはオンラインを活用した市の支援施策や他校区事例の説明会等を強化した。自治会・町内会の加入促進に向け、R5nは補助金を活用した活動支援や地域情報の発信強化に取り組んだ。
-----------	---

今後	・住民の主体的な防災対策を促すため、引き続き講座・訓練を実施するとともに、関係部署、地域、福祉事業者等と連携した個別避難計画作成支援を強化していく。 ・発達が気になる子どもとその保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、「子育て講演会」の実施、子育て情報誌等の配布などにより子育て世帯の不安を軽減する。また、地域住民等に対する児童虐待防止の広報・啓発や、児童虐待への理解・対応力を高めることを目的とした「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」を継続して実施する。 ・「こども家庭センター」を設置し、母子保健・児童福祉の両機能の連携をより強固にし、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援や地域における体制づくりの充実を図る。また、全乳児家庭へ新生児訪問を実施し、育児不安等の軽減を図り、継続支援が必要な場合は関係課と連携し適切な支援につなぐ。 ・サザエさん通り食育レシピ集（全4集）を有効活用し、世代別の食育講習会の開催や、レシピの調理動画の配信など、ライフステージに応じた食育を推進する。 ・特定健診受診率向上に向け、区南部地域の受診促進のため「ともてらす早良」での健診実施と周知を継続する。 ・圏域連携会議等を活用した専門職種間及び地域住民とのネットワークづくりを進め、地域包括ケア関連講座の実施を支援するとともに、事業所ネットワーク等と連携した認知症に関する啓発の推進、大学・歯科医師会との共創によるオーラルフレイル予防事業を継続する。 ・子ども会活動への市の支援施策や他の校区の活動事例を紹介する動画をいつでも視聴できるように区ホームページに掲載するなど、広報にかかる支援を充実させることで、加入者の減少等の課題を抱える地域の子ども会育成活動の活性化を図る。 ・区の公式Instagramや地域コミュニティサイト「ふくコミ」配下の校区自治協議会ページに、自治会や自治協議会の事業の様子を動画で配信するとともに、自治会と協力して自治会の魅力や活動を紹介するチラシデータを制作するなど、地域の魅力発信等の広報活動を支援する。
----	---

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	・区を代表する室見川等の豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・「サザエさん通り」を生かしたまちづくりの推進や、区全域の魅力を発信するプロモーション事業「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かす取組み・企画内容を、より充実したものに検討・実施していく必要がある。
今後	・室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 ・「サザエさん通り」の認知度向上に向け、通り全体でのイベントを企画実施する。また「さわらの秋」では、民間活力を導入し幅広い地域・年齢層に向けた効果的な広報（PR 動画発信、SNS 活用等）やイベントを企画実施する。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	・区南部地域の活性化に向け、地域、団体、行政が一体となった「早良みなみ塾」事業として、「早良みなみマルシェ」（R5n:1,600名来場）や「クリスマスイルミネーション」を実施した。今後、区内外から幅広い層の来訪者を呼び込み、交流人口を拡大していく必要がある。 ・脊振山系の魅力を活かした地域活性化に取り組むため、周辺自治体等（那珂川市、吉野ヶ里町、背振少年自然の家）と R4.3 に連携協定を締結し、各団体所管イベントへの相互出展や共働イベント開催など、連携協定を活かした取組み（R5n:6件）を実施した。 ・脊振山系の魅力発信を目的として関係団体等と連携し、脊振山系の自然を活かしたイベントを実施した。登山関係の企画について参加者層を広げていく必要がある。
今後	・早良みなみマルシェでは「さわらの秋」とのコラボレーション企画や情報発信を強化し、来場者層を広げる取組みを行う。また、「早良みなみ塾」の構成メンバーと連携し、区南部の魅力発信企画を強化していく。 ・周辺自治体等と連携し、共働イベント等を企画・実施するとともに、SNS を活用した情報発信を行っていく。 ・初心者や家族向けの登山体験イベントを実施するなど、脊振山系の魅力を幅広く発信し、新たなファン層の開拓を図る。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

- 取組みの方向性
- 自然を生かし、環境にやさしいまち
 - にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち
 - 大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち
 - 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数	
H12	西 区	26,932	(16.2%)	115,406	(69.3%)	24,275	(14.6%)	166,676	
H17		28,347	(15.9%)	120,391	(67.3%)	30,026	(16.8%)	179,387	
H22		30,181	(15.6%)	126,224	(65.4%)	36,540	(18.9%)	193,280	
H27		31,405	(15.3%)	129,439	(63.0%)	44,772	(21.8%)	206,868	
R2		30,334	(14.9%)	123,786	(60.8%)	49,317	(24.2%)	212,579	
R5	全 市	28,674	(14.1%)	124,642	(61.1%)	50,705	(24.9%)	213,158	
		201,752	(12.9%)	1,011,903	(64.7%)	350,769	(22.4%)	1,642,571	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R5人口は10.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）	
H12	西 区	3,413	(5.5%)	16,385	(26.6%)	61,579			
H17		4,375	(6.4%)	19,213	(28.1%)	68,254			
H22		5,723	(7.3%)	25,157	(32.3%)	77,880			
H27		8,216	(9.3%)	32,347	(36.8%)	88,011			
R2		8,921	(9.3%)	39,137	(41.0%)	95,554			
	全 市	81,715	(9.8%)	431,231	(52.0%)	830,051			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち	
現状と課題	・「西区環境フェスタ」は、主に将来の環境活動の担い手となる若い世代や子どもを対象に、環境問題や環境活動について楽しく学ぶ、参加・体験型のイベントである。R5nは環境活動団体・事業者・大学と連携するとともに、高校生にボランティアとして参加してもらい、SDGsの目標のうち環境分野の5つの目標に関連した内容で実施した。 ・多様な主体により、さまざまな環境活動が実施されているが、内容や人材の固定化・高齢化が課題となっている活動がある。
今後	・「西区環境フェスタ」を継続開催し、若い世代や子どもが、自分でも取り組める環境活動があることに気づく「きっかけ」とし、行動変容を促す。 ・引き続き環境サポーター養成講座を開催するとともに、「西区環境フェスタ」へ若い世代に参加してもらうことにより、環境活動団体の活性化を図る。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち	
現状と課題	・近年の住民自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が長期にわたり中断したことにより、新たな地域活動を担う人材の発掘が困難となり、地域活動の参加者減少・固定化の状況がさらに顕著となっている。 ・市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの課題が顕著な地域もあり、地域の魅力を活かしたまちづくり活動の支援に取り組む必要がある。特に公共交通機関については、新型コロナウイルス感染症の拡大で乗客が減少し、収束後も利用者数の回復には至っていない。

今後	・地域活動支援のため、自治会・町内会研修やオンライン会議の活用支援を継続するとともに、補助金の活用事例や防災をテーマにした取り組みやすい事業メニューの紹介などを通して、持続可能な地域コミュニティの形成を支援する。また、地域の実情に応じて、自治会・町内会の組織・運営支援、広報アドバイザーによる広報支援、集合住宅等に対する加入促進を地域に寄り添い支援する。 ・市街化調整区域のまちづくりに関して、「元寇 750 周年事業」など地域主体の取り組みを支援するとともに、SNS や地域資源を活用した地域の魅力発信を行う。公共交通機関の利用促進については、「登山マップ」等の更新や定期的な配布のほか、地域や事業者等と連携し、利用者増の取り組みを支援・実施していく。
----	--

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

現状と課題	・地域と九州大学等が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、学生の入替わりにより事業の継続が不安定。大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かす安定した取り組みが必要。 ＊九州大学等と地域との連携・交流事業数 R4n：36 事業 R5n：38 事業
今後	・九州大学関係者向けの広報誌を新たに作成する。地域と九州大学の学生が連携できる情報を掲載し、多言語の記事を交えながら西区の魅力を発信することで、大学と地域の連携交流の促進を図る。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区や地域において自主的な防災訓練が実施されているが、活動の主体性には差がある。このため、地域ごとの実情に則して、自主的な防災力を高められるよう支援する必要がある。 ・R5 における西区の犯罪認知件数は、1,328 件と昨年に比べ 295 件の増となっており、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗犯が多く発生している。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。 ・核家族化や地域社会における人間関係の希薄化が進む中、子育て家庭の育児不安や育児負担感の軽減を図り、孤立化防止や児童虐待の未然防止に取り組む必要がある。 ・地域包括ケアの推進については地域ケア会議や ACP*と認知症の啓発イベント「西区オレンジフェスタ」の開催、見守りポイントシートの活用、防災ワークショップの実施等により、見守り・支え合いの仕組みづくりに取り組んでいるが、地域住民同士の交流促進や担い手確保に向けた取り組みが必要である。 ※ACP：もしものときのために自分が望む医療やケアについて前もって考え、信頼する人たちと話し合い、共有する取り組み
今後	・引き続き校区自主防災組織や研修会等を通じて、行政からの防災情報や他校区での取り組み等を情報共有するとともに、避難行動要支援者の個別避難計画について、自治会単位での作成を支援していくことにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくために、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺防止等の啓発活動に取り組んでいく。また、西区役所全庁用車（軽自動車）の青パト化を実施したことで、区職員が外勤帰庁時（主に小学校の下校時）に青色回転灯を回す機会を増やし、地域住民の防犯意識の向上を図るとともに、街頭犯罪抑止に取り組む。 ・育児不安軽減のため、身近な場所での育児相談会や低月齢児親子教室を開催するとともに、子育てサロンや父親向け講座の開催により、子育て家庭の孤立化防止に取り組んでいく。 ・地域包括ケアのさらなる推進に向けて、引き続き多様な主体と連携を図りながら、地域における重層的な見守り体制の構築を図るとともに、地域活動に参加・参画できる仕組みづくりを支援していく。